



豊島病院

〒173-0015

東京都板橋区栄町33番1号

電話 03-5375-1234

病院の概要

豊島病院は東武東上線大山駅（池袋から5分）から徒歩約8分、中板橋駅から徒歩約10分、都営三田線板橋区役所前駅から徒歩約12分の立地にあり、地域支援型病院として23区西北部（板橋区、練馬区、北区、豊島区）の地域医療を担っています。

(1) 救急医療（二次救急）、(2) がん医療（消化器系・呼吸器系、血液、泌尿器系、婦人科系悪性腫瘍等）、(3) 脳・心血管疾患（東京都CCUネットワークに参画・脳神経外科および神経内科が協力して脳卒中ケアユニットを構築）を重点医療として取り組み、地域との連携を重視した医療を推進しています。当院では“断らない救急”を目指しており、二次救急指定病院としての救急医療、緩和ケア、精神科救急、感染症、リハビリテーション、障害者歯科にも積極的に取り組んでおります。また病床約411床の中規模病院ですので各科、各部署との連携が取りやすく、風通しもよく、小回りがきくのが特徴です。豊島病院の基本運営方針でも掲げているように、患者中心の医療に病院総合力を結集し、将来の医療を支えるため優れた医療人を育成することに力を注いでいます。

■ 診療科目

内科 神経内科 内分泌・代謝内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 腎臓内科 血液内科 精神科 小児科
外科 消化器外科 乳腺外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科
リハビリテーション科 放射線科 歯科口腔外科 麻酔科 感染症内科 緩和ケア内科 病理診断科 救急科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- ・内科 (広尾/大久保/大塚/駒込/墨東/多摩総合/東京都健康長寿医療センター/東京医科歯科大学病院/日本大学医学部附属板橋病院/青梅市立総合病院/JCHO 東京山手メディカルセンター/新渡戸記念中野総合病院/国立病院機構災害医療センター/武蔵野赤十字病院/横須賀共済病院/横浜南共済病院/横浜市立みなと赤十字病院/平塚共済病院/土浦協同病院/JA とりで総合医療センター/柏市立柏病院/草加市立病院/秀和総合病院/さいたま赤十字病院/島しょ等)
- ・精神科 (小児総合/松沢/恩田第二病院/東京都健康長寿医療センター/国立精神・神経医療研究センター/成増厚生病院/陽和病院/東京足立病院/がん研有明病院/東京都立精神保健福祉センター/東京医科歯科大学病院/小山富士見台病院/平川病院/大宮厚生病院/青梅成木台病院)

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- ・内科 (広尾/大久保/大塚/駒込/墨東/多摩総合)
- ・外科 (墨東/多摩総合)
- ・小児科 (小児総合)
- ・精神科 (松沢)
- ・麻酔科 (広尾/大塚/駒込/荏原/墨東/多摩総合/東部)
- ・泌尿器科 (駒込)
- ・病理科 (駒込)



(内科カンファレンス)

臨床研修委員会委員長からのひとこと



腎臓内科部長
奥津 理恵

豊島病院は内科、精神科の基幹病院ですが、その他の診療科も連携病院として充実した研修をおくれるよう、各科専門領域の認定医、専門医の取得を目標としてカリキュラムが作られています。当院における研修の一番の特徴は、技術習得の機会が多いことにあります。レジデントの経験する手術症例数、検査手技数が他の施設と比べて非常に多くなっています。日常の臨床では、専攻医（シニアレジデント）の活躍の場が多く、後期研修に要求されるプライマリケア症例を多数経験できます。また一般臨床だけでなく二次救急の場でも、みなさん活躍しています。その他、初期研修医への教育も担ってもらいます。豊島病院としての診療環境の特質は、看護師、検査技師、コメディカル、各科、各部署の連携がとても取りやすく、アットホームであることです。コミュニケーションを大切にすることは、医療を円滑に行うことができるということであり、専攻医が活躍してゆくにも極めて重要です。院内研修会、CPC、学会発表など機会も多く、参加費の助成制度もあります。

ぜひとも希望する科のカリキュラムをご覧ください。そして見学に来ていただければ、より豊島病院を知ることができ、実感できると思います。一緒に働けることを楽しみにしております。

シニアレジデントからのひとこと



循環器内科
2年次
松田 凌也

豊島病院専門研修医2年目の松田凌也です。

当院は、様々な診療科の医師はじめ多くのコメディカル含めて協力して診療を行っております。どの診療科もコメディカルも雰囲気がよく、患者に対してそれが伝わるような現場環境が整っております。

自身が専攻する循環器内科も、若手ながら救急対応、急変対応、病棟業務、カテーテル検査に関しては多彩な経験を積ませていただき、有意義な時間を送っております。難しい症例につきましても、上級医に気軽に相談し的確なアドバイスや指導いただけるため、自身の診療、手技のブラッシュアップに繋がっております。

当院にて専攻科に関しては十分な研修を受けることはもちろん、プログラムの一環として、3か月間ほど基幹病院の救急診療に携わる機会もあります。専攻を決めた状況でもそのように一般的な救急診療に携わることで、一般的な各疾患への対応や重症対応などに触れることができ、新たな刺激が得られると考えます。

また当プログラムには研究への参画があります。研究へ時間を割くことができることで自身がより学びたい領域を深めることができる良い機会となります。

非常に有意義な時間を過ごさせていただいております。ぜひ気になる方は見学にいらしてみてください。



(修了式)



(外科手術)